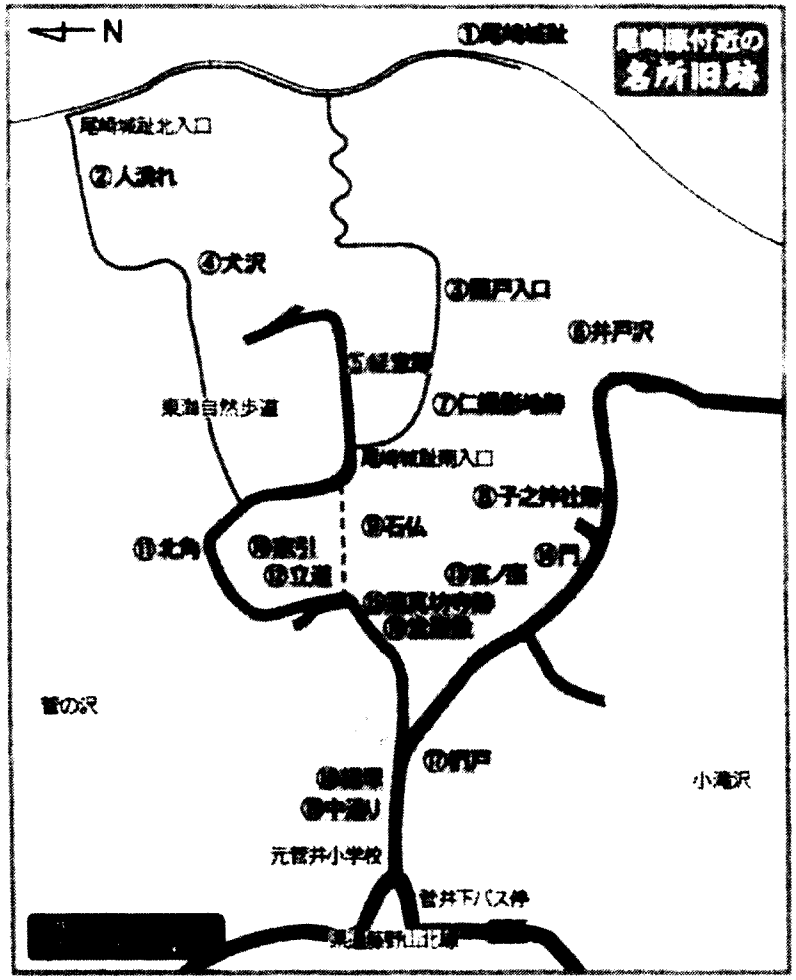
尾崎城と尾崎原のご案内

その昔、ここ菅井の尾崎原山頂（城山）には尾崎城（別名伏馬田城）があり、その城は後北条氏の家臣団で内藤左近将監影定が津久井城主の時代、烽火台を兼た出城として津久井衆の一人であった尾崎掃部助（尾崎掃部頭）が城主として守っていた、この事から「尾崎城」と呼ばれている。

北条氏は、津久井を甲斐武田氏からの脅威を防ぎ止め、北武蔵進出への重要な拠点として確保する必要があった。そのため甲斐の国に隣接している尾崎城が西の砦として軍事的要衝の地であった。また、尾崎原は官や寺などがある大きな集落となっており、六つの街道が交差し、交通の中心として大変栄えていた。

その後、天文五年（1536）甲斐武田軍との戦いがあり、武田側の記録である勝山記には「小林刑部左衛門殿……相模ノ青根（ヤ）カラヲチラシ被食候、足弱ヲ百人計御取候、蓮真坊寺焼申候」とあり、足軽隊百人ほど討ち取り、堂屋敷にあった蓮真坊寺を焼払ったと記されている。また妙法寺記や甲斐国史にもほぼ同様なことが記されている。したがって昔この地菅井は政治経済の重要な拠点であり、数多くの昔にちなんだ地名が残っている。

尾崎原付近の名所旧跡

①尾崎城趾 ②人潰れ ③囲戸入口 ④犬沢 ⑤経堂跡 ⑥井戸沢
⑦仁撮影地跡 ⑧子之神社跡 ⑨石仏 ⑩家引 ⑪北角 ⑫立道
⑬宮ノ窪 ⑭門 ⑮蓮真坊寺跡 ⑯堂屋敷 ⑰椚戸 ⑱経塚 ⑲中通り